

○令和7年度第1回環境審議会における御意見と対応方針

No.	御意見	対応方針
1	基本計画の期間が2050年まで延長されたことで、期間が異なる各個別計画との整合性がどうなるのか。	基本計画は2050年を目指すビジョンとして施策の大綱を示し、具体的施策・数値目標・PDCA管理は各領域の個別計画等が担う構造としています。各個別計画の策定・改定時においても、基本計画の将来像や方向性との整合を図りながら推進していきます。
2	個別計画などの位置付けを、基本計画の中に絵として分かりやすいように描いてほしい。全体としてウェルビーイングが旗としてあるならば、その中で宮城県はそれぞれの部分をどこに当てはめていくのかをわかりやすく示してほしい。	計画の位置づけと推進体制、進捗管理として、個別計画等の関係を記載しました。なお、基本計画の計画期間内において、個別計画の名称等が変わっていく可能性があるため、具体的な計画名などを示した体系図は、資料編などとして別にお示ししてまいります。
3	生態系だけでなく人間の視点、つまり計画に掲げられている「安らぎのある生活空間の創造」や「ウェルビーイング」の視点も必要。安全だけでなくウェルビーイングという人々のより良い暮らしという視点での評価も取り入れてもらいたい。	将来像やあるべき姿にウェルビーイングの視点を取り入れて記載しました。
4	目指す将来像について、2050年のカーボンニュートラル達成時に私たちの生活環境がどう変わっていくかが具体的にイメージできない。	2050年の将来像や各分野のあるべき姿を県民目線の暮らしの情景として表現しました。具体的な施策や評価指標は個別計画へつなげてまいります。
5	基本方針に「地域循環共生圏の考え方を踏まえた統合的向上」を掲げているが、地域の資源を最大限活用することが家計や地域の豊かさにつながるのかという点、まだ中間案が出ていないので見えにくい。環境保全が経済的な豊かさに繋がる姿を計画に盛り込んでほしい。	「環境、経済、社会の統合的向上」を重視し、地域資源の活用が地域での資金循環・雇用創出など地域の豊かさにつながる「あるべき姿」と「施策の方向性」を盛り込みました。基本的な5つの考え方としても盛り込み、施策選択等においても重視してまいります。
6	宮城県は人口もそれなりにあり、自然もあるというのが特徴だと思う。資源循環という観点で宮城県の特徴や強みがどう生かせるのか、基本計画に反映できると良い。	特徴ある廃棄物(牡蠣殻、漁網等)による地域での資源循環を推進しております。基本計画にも宮城のポテンシャルを活かした好循環として反映いたしました。
7	宮城の特色として、都市の恵みと農山漁村の恵み、未利用の部分をお互いに利用し合う循環が宮城の特色として上手く利用できるのではないかな。	農山漁村部で生み出された再生可能エネルギー、豊かな森林・海の環境価値(ブルーカーボンや森林吸収量等)、有機性資源(バイオマス等)を、各地域、都市部や産業界で活用・還元する「地域循環共生圏」の構築を進め、地域間で資金や資源が巡る好循環を図ります。
8	宮城県の特徴を生かした計画も大事だが、新しい特徴を作り出す視点も入れてほしい。	水素やアンモニアなど次世代の脱炭素燃料の活用拡大や、誰もが迷わず分別できる、分かりやすい資源循環の仕組みづくり、自然資本を活用した高付加価値ビジネスなど、2050年に向けた新たな取組や環境産業や地域価値の創出を盛り込みました。

No.	御意見	対応方針
9	政策3「自然共生社会の形成」における管理指標「豊かな生態系」について 指標生物が限定的であり、よほど大きな環境変化がないと数値が動かないため、政策を改善するための指標として、もう少し補足する要素を加えてはどうか。生態系を評価する内容と併せて、事業数も併せて指標とすることで、「豊かな生態系」を目指す政策としてどれくらい近づいているかという評価になる。環境DNAを取り入れながら評価している事例、工事の中で自然生態系を取り入れた工法を積極的に取り入れる都道府県は非常に多く、参考にされたい。	ご指摘のとおり、現在の指標(指標種・重要種)のみでは短期的な施策効果や個別事業の進捗を把握しにくい側面がある一方、流域全体の生態系の健全性を中長期かつ安定的に評価できる利点もあります。 個別計画の「宮城県生物多様性地域戦略」においては、生物種に限らず多角的な指標により評価を行っていることから、いただいたご意見を踏まえ、評価指標のあり方について見直し時に検討してまいります。 また、本指標は個別計画である「水循環基本計画」の位置付けでもあるため、令和13年度に予定している同計画の次期改定の際にも参考とさせていただきます。 なお、工事における自然生態系配慮の工法につきましても、コンクリート護岸上に覆土を実施することで、河岸の植生回復等が見込まれますので、参考にまいります。
10	政策4の大気汚染の関係は平成26年以降、ほぼ目標値を達成している。今後の豊かな宮城県ということで、もう少しチャレンジした指標を設定してはどうか。	環境基準は、人の健康を保護し、快適な生活環境を確保するために国が科学的知見に基づいて設定した目標水準であり、県民のウェルビーイングを支える基礎的な指標であると認識しています。指標設定の必要性については、国の大気環境基準の見直しの動向や他自治体の事例等を参考にしながら、検討してまいります。